

# 北部農業の将来モデル構想

作成年月日	令和 6 年（2024年）6月 12日
農業農村振興事務所 農産普及課名	湖北農業農村振興事務所 農産普及課
対 象 品 目	イチゴ

## 1. 将来モデル構想の概要

- 「湖北苺出荷協議会」において、湖北地域の代表的な園芸品目であるイチゴの県オリジナル品種「みおしずく」を核とした産地が形成されている。
- 個人の新規就農者や農業参入法人等の湖北地域の担い手が「湖北苺出荷協議会」（会員：38名、総面積：約4ha ※R6.3時点）に加入し、既存生産者との「イチゴネットワーク」が作り出されている。
- 農業参入法人等の湖北地域の担い手と新規就農志向者とのマッチングが行われている。

## 2. 将来モデル構想地域の現状

- 湖北地域には、米原市と長浜市のイチゴの生産者で構成される組織「湖北苺出荷協議会」があり、県やJA、市、流通関係者が一体となって、統一ブランド『こほくいちご』の名称で市場出荷に取り組んでいる。
- 近年、『こほくいちご』は、湖北地域の代表的な園芸品目として定着し、県オリジナル品種「みおしずく」の栽培にも取り組んでいるが、「みおしずく」は生産量が少なく、供給量を満たしていない。
- 毎年、イチゴでの就農志向者が現れているが、農地の確保や施設設備・資金調達、資材高騰に伴う初期投資の増大への対応等、様々な課題を抱えており、円滑な就農体制づくりが急務となっている。

## 3. 将来モデル構想地域の目指す姿

- 湖北地域の代表的な園芸品目として県オリジナル品種「みおしずく」を核とした「こほくいちご」の安定生産と市場出荷が一層定着している。
- イチゴ栽培者による「イチゴネットワーク」が実現し、産地の活性化が図られている。
- イチゴでの新規就農者が3名確保されている。

## 4. 将来モデル構想の目標（令和9年度を目標年度とする）

年次	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度 目標
対象品目での地域内での新規 就農者増加数(人) ※1	1	1	2	3
みおしずく 新規栽培予定面積 (㎡) ※累計	—	1,000	2,000	3,000
(参考) 新規イチゴ栽培予定面積 (㎡) ※累計	3,000	7,000	9,000	10,000
生産者組織数	1	1	1	1

(注) ※1 現状年からの累計人数を記載する。また、新規就農者には親元就農、雇用就農、独立自営就農を含む。

#### 5. 将来モデル構想の実現に向けて必要な機械、施設等を導入する対象農業者の姿

- 個人の新規就農者や農業参入法人等の湖北地域の担い手が県オリジナル品種「みおしずく」を栽培品種の柱とし、底面給水育苗や少量土壌培地耕方式による省力・安定栽培と市場への安定出荷に取り組んでいる。
- 湖北苺出荷協議会に加入し、ネットワークが図られることにより、生産者相互の情報交換や生産出荷に関する技術研鑽を活発に行っている。
- 個人の新規就農者や農業参入法人等の湖北地域の担い手では計画的に作付が拡大され、就農志向者とのマッチングにより、雇用就農による人材の確保・育成を積極的に行っている。